

平成22年度 創成館高等学校 学校自己評価結果

学校教育基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自発精神と徹底行動を基幹とし、誠実で責任感の強い人間を育成する。 ・進路の多様化に対処するため、個別指導の充実を図り、情報メディアの活用などにより教育の立体化をすすめる意欲的な生徒の育成を図る。 ・スポーツの振興に努め、体力・精神力の強化を図る。 情報処理など資格取得と外国語教育の充実に努める。
学校教育目標	<p>「豊かな心を持ち、自ら考え実行できる生徒の育成」「良い行動を習慣化させる。」</p> <p>豊かな心とは、1.自ら考え正しく判断できる能力。2.真理を愛し求める心。 3.夢や希望を持つことのできる心。4.他への思いやりの心。</p>
重点努力目標	<p>挨拶の指導「ワンストップ挨拶」と始業時の挨拶の徹底で礼節の心を養う。</p> <p>「学習記録簿」を導入し、教科・科目の指導、基礎学力の向上および自発的に学習する意欲を助長する。</p> <p>特別活動の指導、HR活動・生徒会活動を通じ信頼関係を深め、充実した集団生活ができるようにし、部活動・学校行事に積極的に参加させる。</p> <p>生徒指導・「学びへの構え」を育て、授業規律の向上を図る。</p> <p>進路指導 個性に適した進路の選択を適切に行い、学力の充実と勤労意欲を養う。</p>

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	評価	成果と課題	
1. 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価 ()内は前年度						
(1)	学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	4 (4)	「良い行動を習慣化させる」を重点目標に職員講話も実施し、常に身近なことから考え行動することをあらゆる機会に導入実践した。
				教育課程や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	4 (4)	
(2)	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支えに基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	4 (4)	上記の重点目標を軸とし、生徒指導、職員間の共通理解、PTAなどにも呼びかけて協力を得ることができた。
				教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	4 (4)	
(3)	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	4 (4)	学年会議は毎週のように実施し、常に情報を共有し、共通理解に努めた。 また、学年集会もできるだけ多く実施し、生徒間への目標設定を実行に移すよう常に促した。
				学年会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	4 (4)	
(4)	学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	4 (4)	学年で設定したことを学級にも沿った形で実施した。 また、個別面談は4月からスタートするよう面談計画を作成し実施した。
				個別面談を学期に1回以上実施し、学級生徒の多面的理解を深める。	4 (4)	
				生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	3 (3)	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評価	成果と課題	
2 - 1 . 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価						
(1)	教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する	各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	4 (4)	教育課程の編成により、授業の進度に応じた検定試験が実施され各種資格取得がなされた。
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	4 (4)	
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画（シラバス）を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	4 (4)	基礎学力診断テスト（ベネッセ）を導入し、毎学期に実施した。個々の生徒の基礎学力が細分化されたデータが表示され、個別の指導に繋がっている。また、早いうちから実態に合うように各教科でシラバスも見直した。効果的な学習に繋がるよう「学習記録簿」にて、家庭学習の定着を指導した。
				基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	4 (4)	
				教科の専門性や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うための研究や研修を深める。	3 (4)	
		わかりやすい授業づくり・授業改善を推進するため、生徒による授業評価を定期的に実施する。	3 (3)			
		適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う。	評価基準に基づき、共通理解のもとで評価を行う。評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る。	4 (4)	
(3)	総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	生徒に身につけさせたい力を明確にし、年間計画に基づいて各学年のねらいに沿った学習活動を展開する。	4 (4)	総合学習を「夢map」と位置付け、年間計画通りに学習活動を実施することができた。また、予定通りに各学年ごとの主題を設定し、年2回発表会を実施することができた。
				各学年ごとの主題を設定し、年2回発表会を実施する。	4 (4)	
(4)	特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	3 (3)	学校行事においては一人一役の生徒全員参加型を目指し、学級より係りを選出し組織的に機能するようにした。積極的に生徒達が参加している姿が多く目に映った。
		生徒会活動の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒の自発性・自主性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる。	4 (4)	
		学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を行い活動内容を工夫する。	効果的な学校行事となるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する。	4 (4)	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評価	成果と課題	
2 - 2 . 教育活動		教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価				
(9)	人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	4 (3)	人権・同和教育に関しては県の大会にて、本校職員の研究発表がなされた。また、校内においては生徒への人権学習も有効に実施できた。
(10)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行いながら、人間形成を図る。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援を行う。	3 (3)	部活動の加入率は59%と前年度よりは向上した。休日も練習・合宿等の活動も活発である。また、体操部においては、全国レベルの成績、野球部は九州大会出場、吹奏楽・マーチング部においても金賞、水泳・広州パラでは金メダル、放送部も全国大会出場と互いに切磋琢磨して、校内の活性化に繋がった。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション力等のたくましい人間力を育む。	4 (4)	
(11)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア意識の高揚を図る	ボランティアに親しむために情報を提供し、主体的な参加を奨励する。 施設等への訪問活動や地域環境などの身近で取り組みやすい活動の機会を設定し奉仕の心を育成する。	4 (4)	年間計画で地域のボランティア清掃やリングブル、ペットボトルキャップの回収、琴部や吹奏楽部のボランティア演奏活動を実施した。
(12)	資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	国家資格・各種検定等に果敢に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	4 (4)	国語（漢検）英語（英検）の他、危険物取扱者、工事担任者、簿記等に多くの合格者を出すことができた。
3 - 1 . 組織運営		教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価				
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	4 (4)	生徒指導部や教務部等においては、各学年と連携できるよう人員配置に配慮し効果があった。
				校務全体の円滑な推進のため、各分掌間・学年間の相互連携を図る。	4 (4)	
				分掌ごとの業務記録、資料保存に努める。	4 (4)	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評価	成果と課題	
3 - 2 . 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価						
(2)	各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合いを行う。	4 (4)	女子生徒が増加したことにより、女子生徒指導委員会を設け、生徒指導外の不都合な点(更衣室の不足)や諸問題・カウンセリングに対応できるように配慮した。
				各種委員会での話し合いの結果を教職員の各業務に反映させ、教育活動や学校経営等に生かす。	4 (4)	
(3)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う。	生徒の実態や自校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年3回以上行う。	4 (4)	今年度は全職員を対象に普通救命講習を実施し、AEDを緊急時に対処できるよう終了証を取得した。全国私学教育研究集会長崎大会においては、「私学経営」、「教育課程」、「生徒指導」、「進路指導」、「国際理解教育」、「特色教育」へと多数の職員が参加し、多岐にわたって研修した。また、県外への私学訪問を実施し、学校改革への参考となった。残念ながら今年度は授業等に手が回らなかった。今後は改善の必要性が優先課題である。
				指導実践力の向上を図るため、研究授業及びその検討会(授業研究)等の機会を各教科とも年1回以上行う。	2 (4)	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	3 (4)	
(4)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会等で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質の向上を図る。	4 (4)	
4 - 1 . 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価						
(1)	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	3 (3)	毎日、の清掃活動に全職員で取り組み、ゴミステーションでは分別の徹底を図っている。年度末には各教室をワックス掛けし、きれいな環境づくりを心掛けている。トイレ前に点検表を設置していたが職員のチェックや晴天の日の節電も不十分であった。
				特別な清掃活動(大掃除・地域清掃活動等)を年3回以上実施する。	4 (4)	
				日常生活の中で環境美化の意識を高める指導に取り組む。	3 (4)	
				省エネ運動を推進し、水道使用量や電気使用量を前年比5%減に努める。	3 (4)	
(2)	施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備を図る。	4 (4)	毎月、全職員で安全点検等を実施し、異常があれば補修を行っている。また、アコーディオン・フェンスを増設し、不審者の進入対策も講じている。
				日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	4 (4)	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評価	成果と課題	
4 - 2 . 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価						
(3)	情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理の推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	4 (4)	指導要録の電子化が3年目を迎え、作業時間の短縮にもつながら効率化が図れた。パソコンのネットワーク接続にはウイルス対策がとられ個人情報流出の防止策も徹底された。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。	4 (4)	
				諸帳票類の管理保管体制を整え、適切に運用する。	4 (4)	
5 - 1 . 開かれた学校づくり						
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年2回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	4 (4)	個別面談は6月と1月に実施し、必要に応じて家庭訪問等も実施した。5月のPTA総会ではプロジェクターを使用し、映像を交え活動状況をわかりやすく説明できた。 また、9月にはPTA主催の校内清掃(除草作業)を生徒、教職員合同で実施し、一体感のある活動であった。
				P T A 総会等を活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	4 (4)	
		P T A 活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な P T A 活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	3 (3)	
				P T A 関係の会議への参加率向上に努める。	3 (3)	
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	各教科や部活動等において、関連校との効果的な情報交換や連携に努める。	4 (4)	今年度は、諫早特別支援学校の生徒と一緒に交流学习を実施した。また、市内の中学校の生徒を招き本校で総合的な学習を実施した。 年間計画に基づき、進路説明会(進学・就職)を校内(教室・体育館)で開催し、生徒だけではなく保護者も参加していただき効果的であった。 校医を招き、歯科講話を実施し、生徒には大きな刺激となり、教育効果も得られた。
				関係の深い中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	4 (4)	
				地域等からの苦情等に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善を速やかに行う。	4 (4)	
		外部講師の活用	外部講師招へいによる教育活動を行う。	年間計画に基づき、平和学習・進路講話・交通講話及び大学特別講座等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める。	4 (4)	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評価	成果と課題
5 - 2 . 開かれた学校づくり					
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページの更新を定期的に行い、学校情報の積極的発信に努める。	4 (4)	ホームページは、細部にわたっての更新がスムーズになされた。また、全体をリニューアルし、校長のブログも含めてタイムリーな情報の発信ができた。教育方針は年度始めに、学年便りは年に4回以上発行し、教育活動等における内容を保護者に提供している。また、中学生対象の説明会、オープンスクールにおいては年3回実施し、開催告知のリーフレットの作成により本校の特徴や内容をさらに科・コース別に作成し配布した。
			ホームページを見やすくし、定期的更新を行う	学校情報の内容（諸活動）が、ホームページ更新に反映されるよう担当者との連携を図る。	
		学校情報の広報	学校方針や具体的な教育活動について、適切な情報を地域や関係機関に提供するため、学校だよりを年2回以上発行する。	4 (4)	
			学校方針や具体的な教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する	ポスター配布や説明会の開催など適切な広報活動を行い、中学生の進路選択に関する資料を提供する。	
		学校の特色を感得・理解する機会としての体験入学（オープンスクール）を積極的に開催し、入学希望者の増加に努める。	4 (4)		